

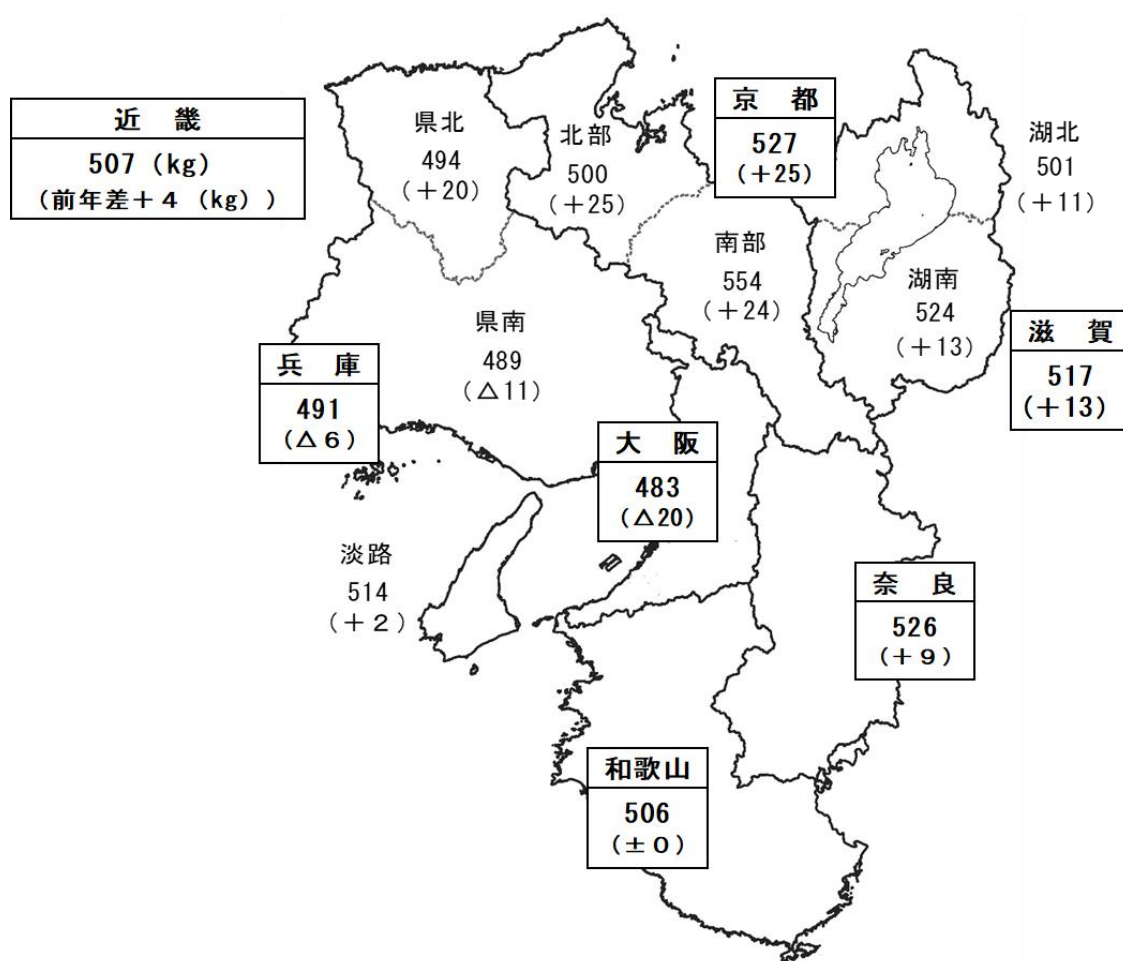
作物統計調査 令和6年産水稻の収穫量（近畿）

— 近畿の10a当たり収量は507kg —

【調査結果の概要】

- 1 令和6年産水稻の作付面積（子実用）は9万4,000ha（前年産に比べ700ha減少）となった。うち主食用作付面積は9万600ha（前年産に比べ600ha減少）となった。
- 2 水稻の10a当たり収量は507kgとなった。
- 3 以上の結果、収穫量（子実用）は47万6,900t（前年産に比べ800t増加）となった。このうち、主食用の収穫量は45万9,600t（前年産に比べ1,800t増加）となった。
- 4 農家等が使用しているふりい目幅ベースの作況指数は101となった。

図1 水稻の府県別・作柄表示地帯別10a当たり収量
(1.70mmのふりい目幅ベース)



- 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積であり、主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である（14 ページ【参考1】参照）。
- 10a 当たり収量及び収穫量は、1.70 mmのふりい目幅で選別された玄米の重量である。

◎ 累年データ

1 水稻の年次別推移（近畿）

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収量	収穫量 (子実用)	主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成26年産	108,000	497	537,100	104,500	519,900	98
27	105,800	508	537,200	101,900	517,700	100
28	104,500	516	538,700	100,500	519,000	102
29	103,200	510	526,600	99,400	507,000	100
30	103,100	502	517,500	99,500	498,700	98
令和元	102,600	503	516,400	99,000	498,000	99
2	101,300	490	496,000	97,700	478,000	96
3	99,300	503	499,700	95,700	481,800	99
4	96,400	517	498,400	92,800	479,500	102
5	94,700	503	476,100	91,200	457,800	100
6	94,000	507	476,900	90,600	459,600	101

資料：農林水産省統計部『作物統計』（以下2～7の統計表において同じ。）

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。

2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

4 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、次により算出している。

(1) 平成26年産 : 1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出。

(2) 平成27年産から令和元年産まで : 全国農業地域ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（近畿は1.80mm）で選別された玄米を基に算出。

(3) 令和2年産以降 : 府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出。

2 水稻の年次別推移（滋賀）

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収量	収穫量 (子実用)	主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成26年産	33,000	502	165,700	31,300	157,100	97
27	32,200	518	166,800	30,600	158,500	100
28	31,900	534	170,300	30,200	161,300	104
29	31,700	517	163,900	30,000	155,100	100
30	31,700	512	162,300	30,100	154,100	99
令和元	31,700	509	161,400	30,200	153,700	98
2	31,100	509	158,300	29,700	151,200	98
3	30,100	519	156,200	28,900	150,000	100
4	29,000	523	151,700	27,700	144,900	101
5	28,300	504	142,600	27,000	136,100	97
6	28,400	517	146,800	27,400	141,700	100

3 水稻の年次別推移（京都）

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収量	収穫量 (子実用)	主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成26年産	15,200	507	77,100	14,900	75,500	99
27	15,000	510	76,500	14,400	73,400	100
28	14,800	516	76,400	14,300	73,800	101
29	14,700	510	75,000	14,100	71,900	100
30	14,500	502	72,800	13,900	69,800	98
令和元	14,400	505	72,700	13,800	69,700	99
2	14,300	501	71,600	13,800	69,100	98
3	14,200	504	71,600	13,600	68,500	99
4	14,000	514	72,000	13,400	68,900	101
5	13,800	502	69,300	13,200	66,300	99
6	13,600	527	71,700	13,000	68,500	104

4 水稻の年次別推移（大阪）

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収量	収穫量 (子実用)	主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成26年産	5,550	495	27,500	5,540	27,400	100
27	5,440	495	26,900	5,440	26,900	100
28	5,310	505	26,800	5,310	26,800	102
29	5,150	506	26,100	5,150	26,100	102
30	5,010	494	24,700	5,000	24,700	99
令和元	4,850	502	24,300	4,850	24,300	101
2	4,700	472	22,200	4,700	22,200	94
3	4,620	490	22,600	4,620	22,600	99
4	4,540	503	22,800	4,540	22,800	102
5	4,440	503	22,300	4,430	22,300	102
6	4,290	483	20,700	4,290	20,700	99

5 水稻の年次別推移（兵庫）

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収量	収穫量 (子実用)	主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成26年産	37,900	487	184,600	36,500	177,800	97
27	37,300	501	186,900	35,700	178,900	99
28	37,000	501	185,400	35,400	177,400	100
29	36,600	501	183,400	35,100	175,900	100
30	37,000	492	182,000	35,500	174,700	98
令和元	36,800	497	182,900	35,300	175,400	99
2	36,500	477	174,100	34,800	166,000	95
3	35,800	491	175,800	34,100	167,400	98
4	34,500	513	177,000	32,800	168,300	102
5	34,200	497	170,000	32,500	161,500	100
6	34,000	491	166,900	32,200	158,100	99

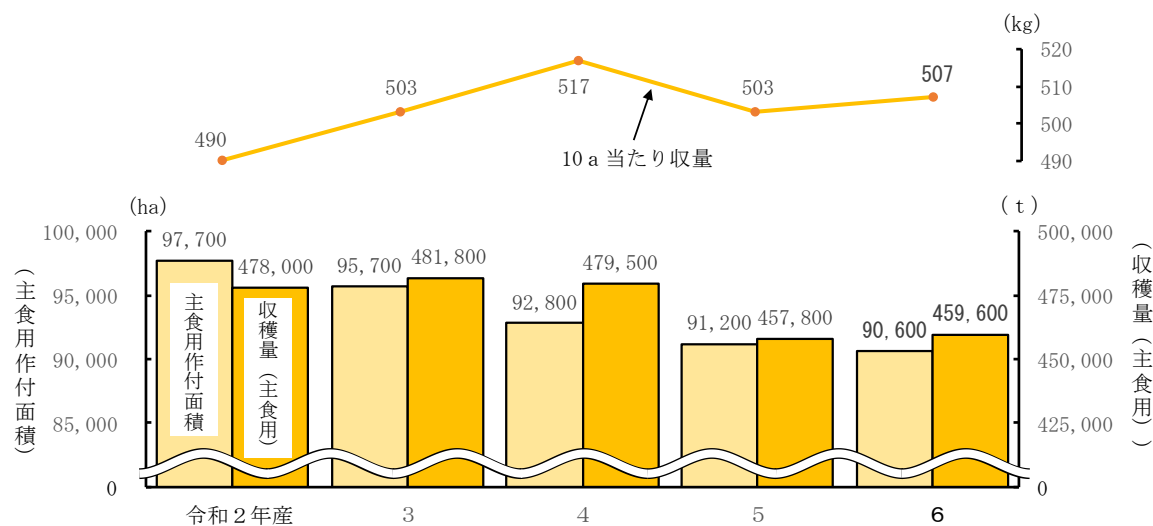
6 水稻の年次別推移（奈良）

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収量	収穫量 (子実用)	主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成26年産	9,060	514	46,600	9,040	46,500	100
27	8,870	515	45,700	8,850	45,600	100
28	8,710	525	45,700	8,680	45,600	102
29	8,610	521	44,900	8,580	44,700	102
30	8,580	514	44,100	8,530	43,800	100
令和元	8,490	515	43,700	8,450	43,500	100
2	8,480	482	40,900	8,430	40,600	92
3	8,440	512	43,200	8,400	43,000	100
4	8,410	522	43,900	8,350	43,600	102
5	8,250	517	42,700	8,200	42,400	101
6	8,000	526	42,100	7,960	41,900	103

7 水稻の年次別推移（和歌山）

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収量	収穫量 (子実用)	主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成26年産	7,230	492	35,600	7,230	35,600	99
27	6,900	499	34,400	6,900	34,400	101
28	6,720	507	34,100	6,720	34,100	102
29	6,560	507	33,300	6,560	33,300	102
30	6,430	492	31,600	6,430	31,600	99
令和元	6,360	494	31,400	6,360	31,400	99
2	6,250	462	28,900	6,250	28,900	92
3	6,100	497	30,300	6,100	30,300	100
4	5,980	519	31,000	5,980	31,000	105
5	5,780	506	29,200	5,780	29,200	103
6	5,680	506	28,700	5,680	28,700	102

図2 水稻の主食用作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量（主食用）の推移（近畿）



注：10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、10 a 当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量（未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。）としている（15ページ【参考2】参照）。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合並びにふるい目幅別10 a 当たり収量及び収穫量（子実用）を示すと次のとおりである。

表1 ふるい目幅別重量分布状況の推移（近畿）

		単位：%					
年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以上
令和元年産	100.0	0.8	1.6	1.9	2.6	14.3	78.8
2	100.0	1.0	1.8	2.1	3.1	14.3	77.7
3	100.0	1.0	1.6	1.9	2.7	14.3	78.5
4	100.0	0.9	1.5	1.9	2.9	12.7	80.1
5	100.0	0.8	1.2	1.6	2.4	10.5	83.5
6	100.0	0.8	1.1	1.4	2.3	10.1	84.3
平均値	100.0	0.9	1.5	1.9	2.7	13.2	79.8
対平均差（ポイント）	0.0	△ 0.1	△ 0.4	△ 0.5	△ 0.4	△ 3.1	4.5

注：1 ふるい目幅別重量分布とは、それぞれのふるい目幅で選別された玄米の重量の割合である（以下同じ）。
2 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である（以下同じ）。

表2 ふるい目幅別重量割合、10 a 当たり収量及び収穫量（子実用）の推移（近畿）

年 産		単位	1.70mm 以上	1.75mm 以上	1.80mm 以上	1.85mm 以上	1.90mm 以上	2.00mm 以上
令和元年産	重量割合	%	100.0	99.2	97.6	95.7	93.1	78.8
	10 a 当たり収量	kg	503	499	491	481	468	396
	収穫量	t	516,400	512,300	504,000	494,200	480,800	406,900
2	重量割合	%	100.0	99.0	97.2	95.1	92.0	77.7
	10 a 当たり収量	kg	490	485	476	466	451	381
	収穫量	t	496,000	491,000	482,100	471,700	456,300	385,400
3	重量割合	%	100.0	99.0	97.4	95.5	92.8	78.5
	10 a 当たり収量	kg	503	498	490	480	467	395
	収穫量	t	499,700	494,700	486,700	477,200	463,700	392,300
4	重量割合	%	100.0	99.1	97.6	95.7	92.8	80.1
	10 a 当たり収量	kg	517	512	505	495	480	414
	収穫量	t	498,400	493,900	486,400	477,000	462,500	399,200
5	重量割合	%	100.0	99.2	98.0	96.4	94.0	83.5
	10 a 当たり収量	kg	503	499	493	485	473	420
	収穫量	t	476,100	472,300	466,600	459,000	447,500	397,500
6	重量割合	%	100.0	99.2	98.1	96.7	94.4	84.3
	10 a 当たり収量	kg	507	503	497	490	479	427
	収穫量	t	476,900	473,100	467,800	461,200	450,200	402,000
対前年比（収穫量）		%	100	100	100	100	101	101

注：1 ふるい目幅別の10 a 当たり収量とは、近畿の10 a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。
2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、近畿の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

【調査結果】

1 近畿

(1) 令和6年産水稻の作付面積（子実用）は9万4,000ha（前年産に比べ700ha減少）となった。

また、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は9万600ha（前年産に比べ600ha減少）となった。

(2) 近畿の10a当たり収量は507kg（前年産に比べ4kg増加）となった。

これを府県別にみると、滋賀県が517kg（前年産に比べ13kg増加）、京都府が527kg（同25kg増加）、大阪府が483kg（同20kg減少）、兵庫県が491kg（同6kg減少）、奈良県が526kg（同9kg増加）、和歌山県が506kg（前年産並み）となった。

(3) 収穫量（子実用）は47万6,900t（前年産に比べ800t増加）となった。このうち、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は45万9,600t（同1,800t増加）となった。

(4) 農家等が使用しているふりい目幅ベースの作況指数は101の「平年並み」となった。

これを府県別にみると、「やや良」は、京都府（作況指数104）、奈良県（同103）及び和歌山県（同102）の3府県、「平年並み」は、滋賀県（同100）、大阪府（同99）及び兵庫県（同99）の3府県となった。

表3 令和6年産水稻の作付面積及び収穫量（近畿）

農 業 地 域 府 県	作付面積（子実用）			10 a 当たり収量 (1. 70mmのふるい目幅ベース)		収 穫 量（子実用） (1. 70mmのふるい目幅ベース)			主食用 作付面積	収 穫 量 (主食用) (1. 70mmベース)
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	対前年産差	実数 ③＝①×②	前年産との比較			
		対 差	対比				対 差	対比		
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t
近 畿	94, 000	△700	99	507	4	476, 900	800	100	90, 600	459, 600
滋 賀	28, 400	100	100	517	13	146, 800	4, 200	103	27, 400	141, 700
京 都	13, 600	△200	99	527	25	71, 700	2, 400	103	13, 000	68, 500
大 阪	4, 290	△150	97	483	△20	20, 700	△1, 600	93	4, 290	20, 700
兵 庫	34, 000	△200	99	491	△ 6	166, 900	△3, 100	98	32, 200	158, 100
奈 良	8, 000	△250	97	526	9	42, 100	△ 600	99	7, 960	41, 900
和 歌 山	5, 680	△100	98	506	0	28, 700	△ 500	98	5, 680	28, 700

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。

2 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふりい目幅で選別された玄米の重量である。

3 10a当たり収量の平年との比較は、10a当たり平年収量との比較である。

4 近畿の作付面積（子実用）、収穫量（子実用）、主食用作付面積及び収穫量（主食用）については、ラウンドの関係で府県ごとの積上げ値と一致しない場合がある。また、表頭の計算についても一致しない場合がある。

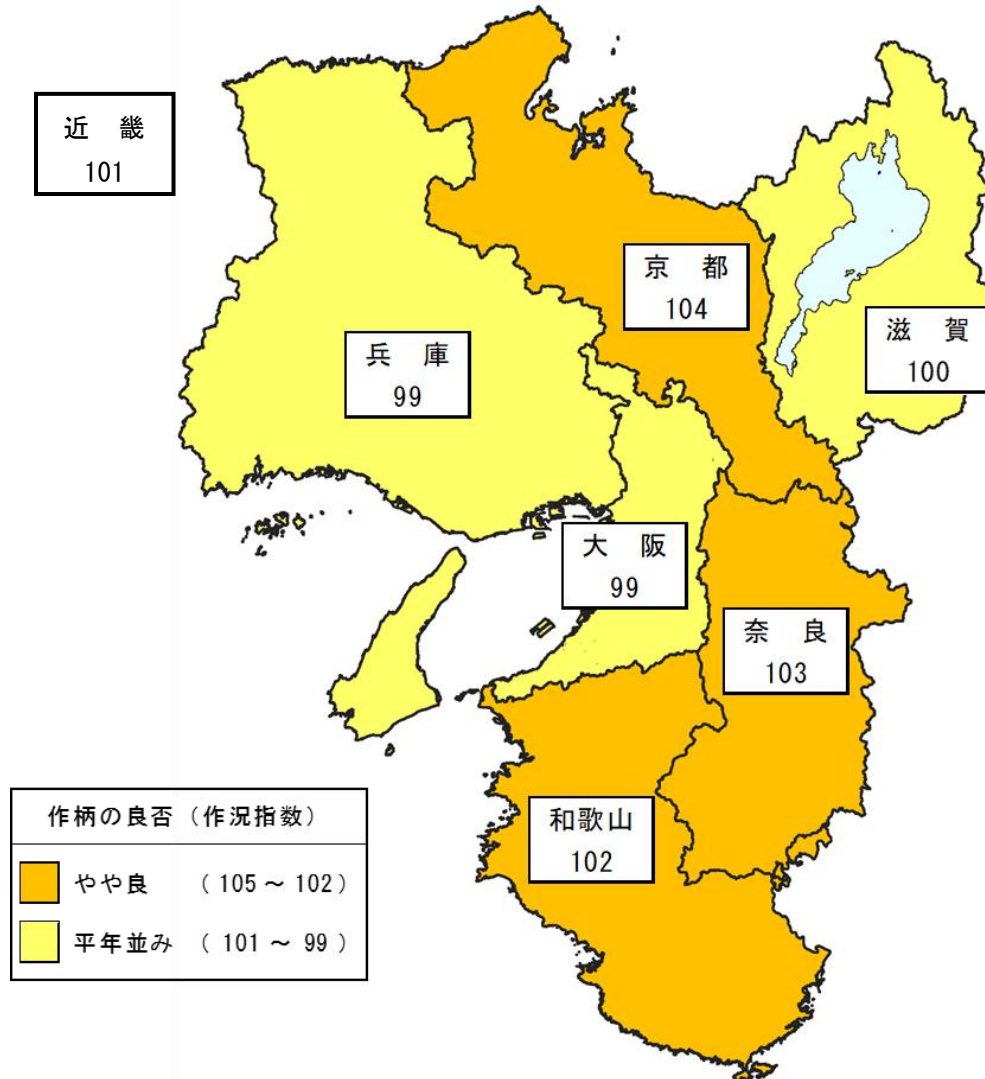
5 主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

表 4 令和 6 年産水稻の作況指数及び作柄概況（近畿）

農業地域 ・ 府 県	農家等が使用しているふるい目幅ベース				作柄概況（平年比較）			
	最も多い 使用割合 の目幅	10 a 当たり 収量 ①	10 a 当たり 平年収量 ②	作況指数 ③＝①/②	穂数の多少	1 穂当たり もみ数の多少	全もみ数 の多少	登熟の 良否
近 畿	mm …	kg 488	kg 485	101	…	…	…	…
滋 賀	1.90	484	483	100	やや少ない	多い	やや多い	やや不良
京 都	1.85	512	492	104	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
大 阪	1.80	472	478	99	少ない	多い	平年並み	平年並み
兵 庫	1.85	475	478	99	少ない	やや多い	やや少ない	平年並み
奈 良	1.80	517	500	103	平年並み	やや多い	やや多い	やや良
和 歌 山	1.80	500	491	102	少ない	やや多い	平年並み	やや良

注： 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、府県ごとに、過去 5 か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

図 3 水稻の府県別作況指数（近畿）
（農家等が使用しているふるい目幅ベース）



注： 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、府県ごとに、過去 5 か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

2 滋賀県

(1) 作付面積

令和6年産水稻の作付面積（子実用）は2万8,400ha（前年産に比べ100ha増加）となった。また、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は2万7,400ha（同400ha増加）となった。

(2) 作柄概況

全もみ数は、作付面積の多くを占める湖南が生育期間を通しておおむね天候に恵まれたことからやや多いとなり全体では「やや多い」となった。

登熟は、湖南で全もみ数がやや多いことによる相反作用や出穂・開花期に当たる7月中旬～8月中旬にかけて記録的な高温となった影響により不稔もみの発生がみられたことから、滋賀県全体では「やや不良」となった。

水稻の10a当たり収量は517kg（前年産に比べ13kg増加）となった。作柄表示地帯別では、湖南524kg（同13kg増加）、湖北501kg（同11kg増加）となった。

滋賀県の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.90mm）の作況指数は100の「平年並み」となった。作柄表示地帯別では、湖南、湖北ともに100の「平年並み」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は14万6,800t（前年産に比べ4,200t増加）となった。このうち、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は14万1,700t（同5,600t増加）となった。

表5 令和6年産水稻の作付面積及び収穫量（滋賀県）

府 県 ・ 作柄表示地帯	作付面積（子実用）			10 a 当たり収量 (1.70mmのふるい目幅ベース)		収穫量（子実用） (1.70mmのふるい目幅ベース)			主食用 作付面積	収穫量 (主食用) (1.70mmベース)
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	対前年産差	実数 ③＝①×②	前年産との比較			
		対差	対比				対差	対比		
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t
滋 賀	28,400	100	100	517	13	146,800	4,200	103	27,400	141,700
湖 南	19,300	△100	99	524	13	101,100	2,000	102	…	…
湖 北	9,120	240	103	501	11	45,700	2,200	105	…	…

表6 令和6年産水稻の作況指数及び作柄概況（滋賀県）

府 県 ・ 作柄表示地帯	農家等が使用しているふるい目幅ベース				作柄概況（平年比較）			
	最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり 収量 ①	10a当たり 平年収量 ②	作況指数 ③=①/②	穂数の多少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数の 多少	登熟の良否
	mm	kg	kg					
滋 賀	1.90	484	483	100	やや少ない	多い	やや多い	やや不良
湖 南	...	491	491	100	やや少ない	多い	やや多い	やや不良
湖 北	...	467	465	100	少ない	多い	平年並み	平年並み

3 京都府

(1) 作付面積

令和6年産水稻の作付面積（子実用）は1万3,600ha（前年産に比べ200ha減少）となった。また、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は1万3,000ha（同200ha減少）となった。

(2) 作柄概況

全もみ数は、生育期間を通しておおむね天候に恵まれたことから全体では「やや多い」となった。

登熟は、早生品種の多い北部では全もみ数がやや多いことによる相反作用でやや不良となったものの、晩生品種の多い南部では、出穂期以降、高温・多照に経過し、粒の肥大・充実が順調でやや良となったことから、京都府全体では「平年並み」となった。

水稻の10a当たり収量は527kg（前年産に比べ25kg増加）となった。作柄表示地帯別では、南部が554kg（同24kg増加）、北部が500kg（同25kg増加）となった。

京都府の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.85mm）の作況指数は104の「やや良」となった。作柄表示地帯別では、南部が108の「良」、北部が100の「平年並み」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は7万1,700t（前年産に比べ2,400t増加）となった。このうち、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は6万8,500t（同2,200t増加）となった。

表7 令和6年産水稻の作付面積及び収穫量（京都府）

府 県 作柄表示地帯	作付面積（子実用）			10 a 当たり収量 (1.70mmのふるい目幅ベース)		収穫量（子実用） (1.70mmのふるい目幅ベース)			主食用 作付面積	収穫量 (主食用) (1.70mmベース)
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	対前年産差	実数 ③＝①×②	前年産との比較			
		対差	対比				対差	対比		
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t
京 都	13,600	△200	99	527	25	71,700	2,400	103	13,000	68,500
南 部	6,860	△ 80	99	554	24	38,000	1,200	103	…	…
北 部	6,790	△ 30	100	500	25	34,000	1,600	105	…	…

表8 令和6年産水稻の作況指数及び作柄概況（京都府）

府 県 作柄表示地帯	農家等が使用しているふるい目幅ベース				作柄概況（平年比較）			
	最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり 収量 ①	10a当たり 平年収量 ②	作況指数 ③=①/②	穂数の多少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数の 多少	登熟の良否
京 都	1.85 mm	512 kg	492 kg	104	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
南 部	…	538	496	108	やや少ない	多い	やや多い	やや良
北 部	…	487	488	100	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良

4 大阪府

(1) 作付面積

令和6年産水稻の作付面積（子実用）は4,290ha（前年産に比べ150ha減少）となった。また、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は4,290ha（同140ha減少）となった。

(2) 作柄概況

全もみ数は、6月下旬の日照不足等による分けつの抑制や疎植栽培の拡大等で穂数が少ない傾向となったものの、生育期間を通しておおむね天候に恵まれたことから「平年並み」となった。

登熟は、8月下旬～9月にかけて記録的な高温となった影響により不稔もみの発生がみられたものの、出穂期以降、多照で経過したことから「平年並み」となった。

水稻の10a当たり収量は483kg（前年産に比べ20kg減少）となった。

大阪府の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.80mm）の作況指数は99の「平年並み」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は2万700t（前年産に比べ1,600t減少）となった。このうち、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は2万700t（同1,600t減少）となった。

表9 令和6年産水稻の作付面積及び収穫量（大阪府）

府 県	作付面積（子実用）				10 a 当たり収量 (1.70mmのふるい目幅ベース)		収穫量（子実用） (1.70mmのふるい目幅ベース)			主食用 作付面積	収穫量 (主食用) (1.70mmベース)
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	対前年産差	実数 ③＝①×②	前年産との比較				
		対差	対比				対差	対比			
大 阪	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t	
	4,290	△150	97	483	△20	20,700	△1,600	93	4,290	20,700	

表10 令和6年産水稻の作況指数及び作柄概況（大阪府）

府 県	農家等が使用しているふるい目幅ベース				作柄概況（平年比較）			
	最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり 収量 ①	10a当たり 平年収量 ②	作況指数 ③=①/②	穂数の多少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数の 多少	登熟の良否
	mm	kg	kg					
大 阪	1.80	472	478	99	少ない	多い	平年並み	平年並み

5 兵庫県

(1) 作付面積

令和6年産水稻の作付面積（子実用）は3万4,000ha（前年産に比べ200ha減少）となった。また、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は3万2,200ha（同300ha減少）となった。

(2) 作柄概況

全もみ数は、淡路ではやや多いとなったものの、作付面積の多くを占める県南では6月下旬及び7月中旬の日照不足により分げつが抑制され穂数が少なくなった影響等からやや少ないとなり兵庫県全体では「やや少ない」となった。

登熟は、淡路がやや不良となったものの、出穂期以降、おおむね天候に恵まれたことから県南がやや良となり、兵庫県全体では「平年並み」となった。

水稻の10a当たり収量は491kg（前年産に比べ6kg減少）となった。作柄表示地帯別では、県南が489kg（同11kg減少）、県北が494kg（同20kg増加）、淡路が514kg（同2kg増加）となった。

兵庫県の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.85mm）の作況指数は99の「平年並み」となった。作柄表示地帯別では、県南が99、県北が100の「平年並み」、淡路が103の「やや良」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は16万6,900t（前年産に比べ3,100t減少）となった。このうち、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は15万8,100t（同3,400t減少）となった。

表11 令和6年産水稻の作付面積及び収穫量（兵庫県）

府 県 作柄表示地帯	作付面積（子実用）			10 a 当たり収量 (1. 70mmのふるい目幅ベース)		収穫量（子実用） (1. 70mmのふるい目幅ベース)			主食用 作付面積	収穫量 （主食用） (1. 70mmベース)
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	対前年産差	実数 ③=①×②	前年産との比較			
		対差	対比				対差	対比		
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t
兵 庫	34, 000	△200	99	491	△ 6	166, 900	△3, 100	98	32, 200	158, 100
県 南	25, 900	△100	100	489	△11	126, 700	△3, 300	97	…	…
県 北	5, 320	△ 90	98	494	20	26, 300	700	103	…	…
淡 路	2, 740	△110	96	514	2	14, 100	△ 500	97	…	…

表12 令和6年産水稻の作況指数及び作柄概況（兵庫県）

府 県 作柄表示地帯	農家等が使用しているふるい目幅ベース				作柄概況（平年比較）			
	最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり 収量 ①	10a当たり 平年収量 ②	作況指数 ③=①/②	穂数の多少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数の 多少	登熟の良否
	mm	kg	kg					
兵 庫	1.85	475	478	99	少ない	やや多い	やや少ない	平年並み
県 南	...	473	478	99	少ない	多い	やや少ない	やや良
県 北	...	481	482	100	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
淡 路	...	490	474	103	やや多い	やや多い	やや多い	やや不良

6 奈良県

(1) 作付面積

令和6年産水稻の作付面積（子実用）は8,000ha（前年産に比べ250ha減少）となった。
また、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は7,960ha（同240ha減少）となった。

(2) 作柄概況

全もみ数は、6月下旬の日照不足により分けつの抑制がみられたものの、生育期間を通しておおむね天候に恵まれたことから「やや多い」となった。

登熟は、出穂期以降、気温・日照時間ともに平年を上回って経過したことから「やや良」となった。

水稻の10a当たり収量は526kg（前年産に比べ9kg増加）となった。

奈良県の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.80mm）の作況指数は103の「やや良」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は4万2,100t（前年産に比べ600t減少）となった。このうち、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は4万1,900t（同500t減少）となった。

表13 令和6年産水稻の作付面積及び収穫量（奈良県）

府 県	作付面積（子実用）			10 a 当たり収量 (1.70mmのふるい目幅ベース)		収穫量（子実用） (1.70mmのふるい目幅ベース)			主食用 作付面積	収穫量 (主食用) (1.70mmベース)
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	対前年産差	実数 ③＝①×②	前年産との比較			
		対差	対比				対差	対比		
奈 良	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t
	8,000	△250	97	526	9	42,100	△600	99	7,960	41,900

表14 令和6年産水稻の作況指数及び作柄概況（奈良県）

府 県	農家等が使用しているふるい目幅ベース				作柄概況（平年比較）			
	最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり 収量 ①	10a当たり 平年収量 ②	作況指数 ③=①/②	穂数の多少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数の 多少	登熟の良否
	mm	kg	kg					
奈 良	1.80	517	500	103	平年並み	やや多い	やや多い	やや良

7 和歌山県

(1) 作付面積

令和6年産水稻の作付面積（子実用）は5,680ha（前年産に比べ100ha減少）となった。
また、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は5,680ha（同100ha減少）となった。

(2) 作柄概況

全もみ数は、6月下旬の日照不足により分けつの抑制がみられたものの、生育期間を通しておおむね天候に恵まれたことから「平年並み」となった。

登熟は、出穂期以降、高温・多照で経過したこと等から「やや良」となった。

水稻の10a当たり収量は506kg（前年産並み）となった。

和歌山県の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.80mm）の作況指数は102の「やや良」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は2万8,700t（前年産に比べ500t減少）となった。このうち主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は2万8,700t（同500t減少）となった。

表15 令和6年産水稻の作付面積及び収穫量（和歌山県）

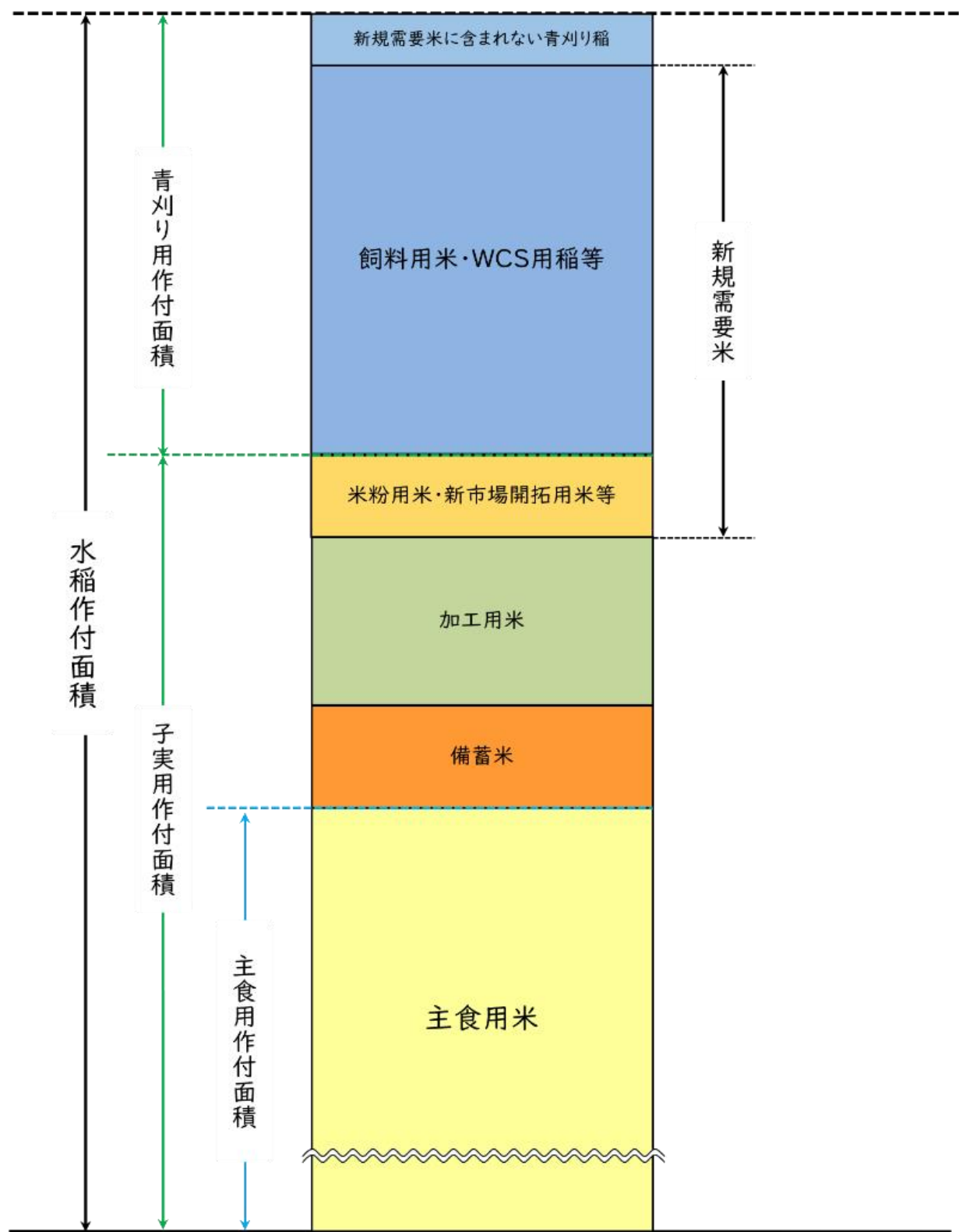
府 県	作付面積（子実用）			10 a 当たり収量 (1.70mmのふるい目幅ベース)		収穫量（子実用） (1.70mmのふるい目幅ベース)			主食用 作付面積	収穫量 (主食用) (1.70mmベース)
	実数	前年産との比較		実数	対前年産差	実数	前年産との比較			
		対差	対比				対差	対比		
①			②		③＝①×②			④	⑤＝④×②	
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t
和 歌 山	5,680	△100	98	506	0	28,700	△500	98	5,680	28,700

表16 令和6年産水稻の作況指数及び作柄概況（和歌山県）

府 県	農家等が使用しているふるい目幅ベース				作柄概況（平年比較）			
	最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり 収量	10a当たり 平年収量	作況指数	穂数の多少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数の 多少	登熟の良否
	①	②	③=①/②					
	mm	kg	kg					
和歌山	1.80	500	491	102	少ない	やや多い	平年並み	やや良

【参考 1】

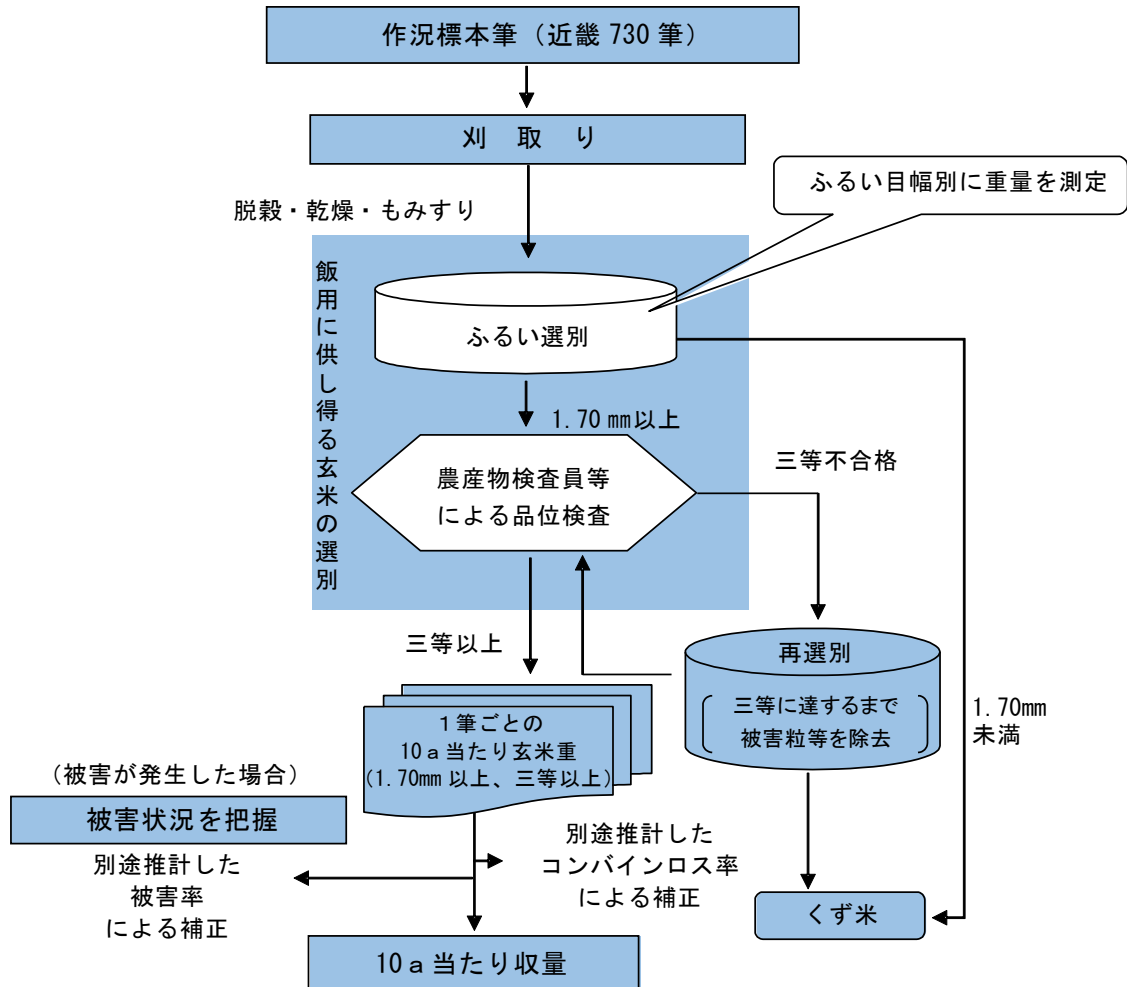
水稻作付面積の概念図



【参考 2】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆^{ふで}（1枚のほ場を筆という。）（【参考 3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合 45%）以上に相当するよう、ふるい目幅 1.70mm 以上で選別を行い、その重さを計測している。



【参考 3】

作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆は、各府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（近畿で 730 筆）調査している。

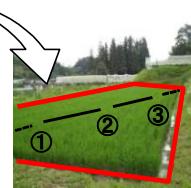
府県内の全ての土地
(母集団)



標本単位区
(200m 四方の土地)



作況標本筆
(近畿で 730 筆)



1 府県ごとの全ての土地を 200m 四方に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

2 標本単位区の中から無作為に 1 枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

3 各作況標本筆の対角線上の 3 か所 (①、②、③) を実測調査箇所として、調査箇所ごとに 1 m² (合計 3 m²) 分のサンプル採取 (坪刈り) を行っている。

【用語の解説】

- 1 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WC S用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米等をいう。
- 2 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいう。

- 3 「作況指数」とは、作柄の良否を表す指標のことをいい、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率である。

なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までの作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（近畿は1.80mm）で選別された玄米を基に算出した。令和2年産以降の作況指数は、都道府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

令和6年産の作況指数の算出に用いるふるい目幅	
府 県	農家等使用目幅
滋 賀	1.90mm
京 都	1.85mm
大 阪	1.80mm
兵 庫	1.85mm
奈 良	1.80mm
和歌山	1.80mm

- 4 「穂数の多少」とは、1 m²当たりの穂の数、「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているもみの平均数、「全もみ数の多少」とは、1 m²当たりのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表している。「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表している。

なお、これらはそれぞれ過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した平年値との比較を次の5段階で表している。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

【利用上の注意】

- 1 統計数値については、次の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原数		6 桁 (10万)	5 桁 (1 万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		2 桁		1 桁	四捨五入 し ない
例	四捨五入する前（原数）	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	123,500	12,300	1,230	123

- 2 表中に用いた記号は次のとおりである。
「0」、「0.0」：増減がないもの
「…」：事実不詳又は調査を欠くもの
「△」：負数又は減少したもの
- 3 この資料に掲載された数値等を他に転載する場合は、「令和6年産水稻の収穫量（近畿）」（近畿農政局）による旨を記載してください。

【統計表】

https://www.maff.go.jp/kinki/toukei/d/excel/06_suitou_syukakuryou.xlsx

【調査の概要】

- ・ 面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

- ・ 作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

- ・ 本資料は、近畿農政局ホームページの統計情報に掲載している統計調査結果の「農林水産統計（第1報）」で御覧いただけます。

<https://www.maff.go.jp/kinki/toukei/index2.html#ippou>

- ・ 公表した数値の正誤情報は、近畿農政局ホームページに掲載します。
- ・ 本調査の全国の結果は、農林水産省ホームページの統計情報に掲載します。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y5

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

病害虫に関する情報：農林水産省＞組織別から探す＞消費・安全局＞病害虫の防除に関する情報

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/>

※ 上記リンクでは、病害虫の防除に関する情報として、総合防除の推進や発生予察事業による病害虫の発生予測等について掲載しています。

なお、「植物防疫年報」として公開している病害虫の発生面積は病害虫の発生予測の参考として調査を行っているもので、農作物の作付面積、収量等の調査を行っている作物統計調査とは調査目的や調査方法等が異なります。

各都道府県の生育状況等：米ネット（公益社団法人米穀安定供給確保支援機構）＞水稻の生育状況・技術情報リンク集

<https://www.komenet.jp/linkshuu/suitolink/>

【お問合せ先】

◎本統計調査結果について

近畿農政局統計部生産流通消費統計課

電話：（代表）075-451-9161 内線2655

（直通）075-414-9650

近畿農政局 滋賀県拠点 統計担当

電話：（直通）077-522-4344

近畿農政局 大阪府拠点 統計担当

電話：（直通）06-6941-9659

近畿農政局 奈良県拠点 統計担当

電話：（直通）0742-32-1874

近畿農政局 統計部 統計調査担当

電話：（直通）075-366-2005

近畿農政局 兵庫県拠点 統計担当

電話：（直通）078-391-2873

近畿農政局 和歌山県拠点 統計担当

電話：（直通）073-436-3835

◎農林水産統計全般について

近畿農政局統計部統計企画課

電話：（直通）075-414-9620



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



SAFF

データの力で。

農林水産統計

Statistics of Agriculture,
Forestry and Fisheries

5年に1度の一斉調査

2025年農林業センサス（令和7年2月1日現在）を実施します。

調査期間

令和6年12月中旬 ～ 令和7年2月末 農林業経営体調査

令和7年1月中旬 ～ 令和7年2月末 農山村地域調査（市区町村調査）

令和7年10月上旬 ～ 令和7年12月末 農山村地域調査（農業集落調査）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いいたします。

また、調査票はオンラインによる回答も可能です。



農林業センサス

農林業センサス 2025

